

# 万協フローア OAPタイプ 施工要領書

## 1.はじめに

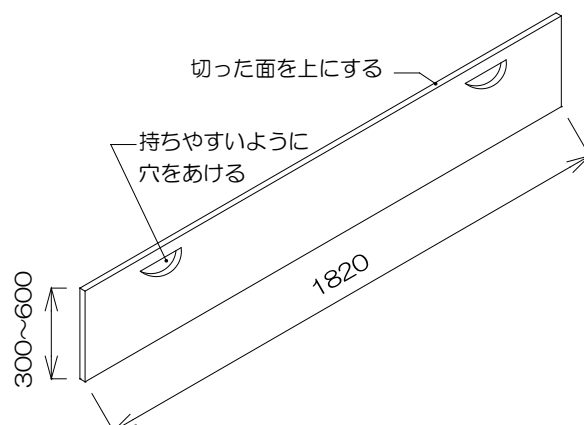
このたびは弊社二重床をご採用いただきありがとうございます。  
製品の特性を十分に生かし、安全で美しい仕上がりに施工して頂くために  
本書をよく読み、正しくお取り扱いくださいますようお願いいたします。

## 2.施工工具一覧

- 電動ノコギリ（丸ノコ）
- ドライバー（プラスドライバーの2番を使用してください）
- インパクトドライバー
- 水平器
- レーザー水平器
- スケール
- カッター
- 定規（下図参照）※1
- すきまゲージ（壁際用5mm）
- ほうき
- ちりとり
- スクレイパー

### ※1 定規

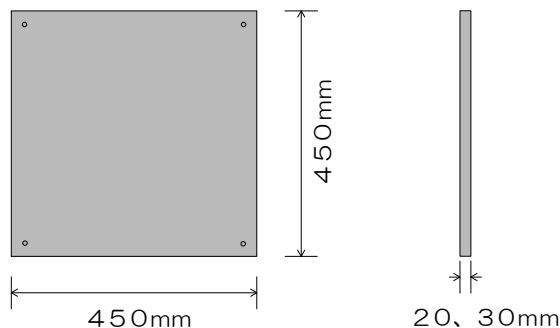
パーティクルボードを半分に切って作ります。



床の水平レベルを調整するために使用します。

### 3. 製品仕様

#### ①パーティクルボード（以下、パーチとする）

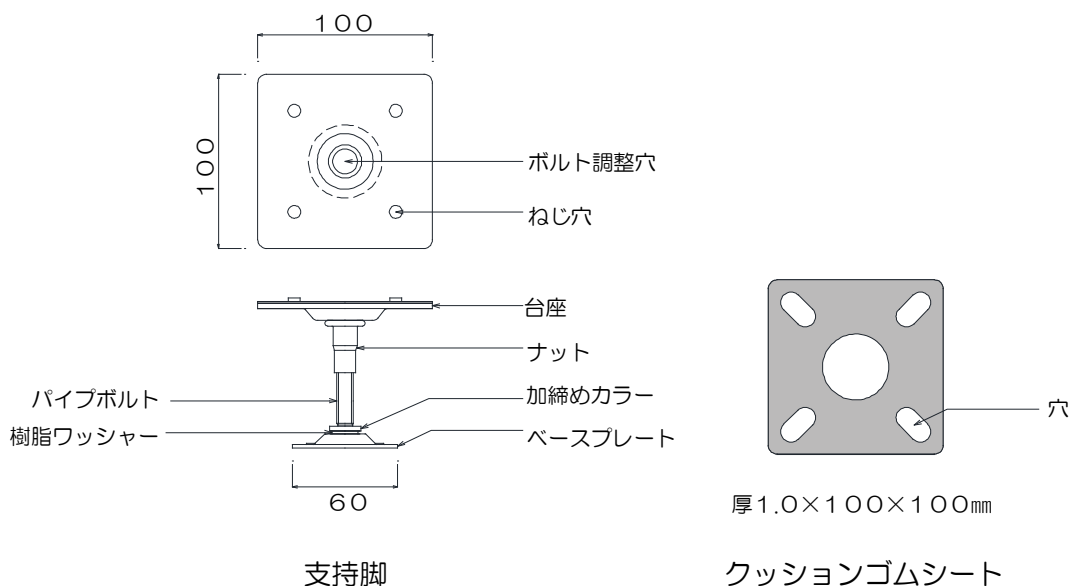


OP-2044（厚20×450×450mm）  
OP-3044（厚30×450×450mm）

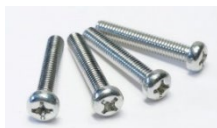
- 注意** 万協フローア指定のパーチをご使用ください。
- 注意** パーチはぬらさないでください。
- 注意** 直射日光の当たる場所に長時間放置しないでください。

#### ②支持脚およびクッションゴムシート（同梱）

- 品番によりナットの形状および寸法が変わります。
- 品番によりパイプボルトの長さが変わります。
- OP-210以上の品番は、パイプボルトの径が太くなります。



#### ③パーチ固定用なべねじ（同梱） （φ）6×（長さ）35mm



#### ④接着剤（同梱）

中ブタを取り、ノズルの先端をカッターで切って使⽤します。

冬季など低温度・低湿度のときは硬化しにくい場合があります。

**注意** 万協フローア指定の接着剤（BA-200）をご使⽤ください。

**注意** 使⽤の際は換気をよくしてください。

**注意** 誤って目に入れたり、飲み込んだ場合は直ちに医師の診断を受けてください。

**注意** 標準入数の半数以下のご注文の場合、接着剤は同梱されませんので、別途購⼊してください。



#### ⑤コーススレッド半ねじフレキ付（別売 市販品）

壁際でネダとパチの固定に使⽤します。

20mmパチ（OP-2044） （長さ）38mm

30mmパチ（OP-3044） （長さ）45mm

## 4. 施⼯手順

### 4.1 施⼯を始める前に

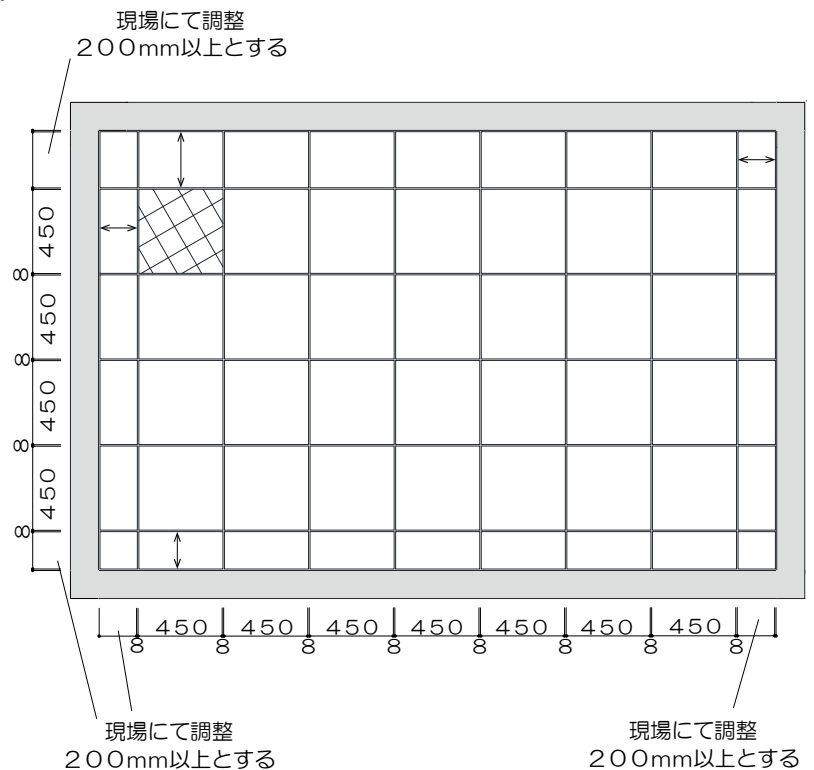
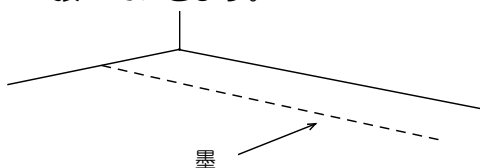
- ・スラブ面にゴミがないように清掃します。
- ・床高に合った支持脚であるか確認します。
- ・パチの枚数を確認します。
- ・仕上がり高の墨打ちを確認します。

### 4.2 墨打ち

周囲4辺の壁際のパチが200mm未満にならないことを考慮して、最初のパチの張る位置を決めます。

（部屋内壁から2列以上、部屋中央）

パチが直線に通るように縦横に墨を打ちます。この墨に沿ってパチを張っていきます。

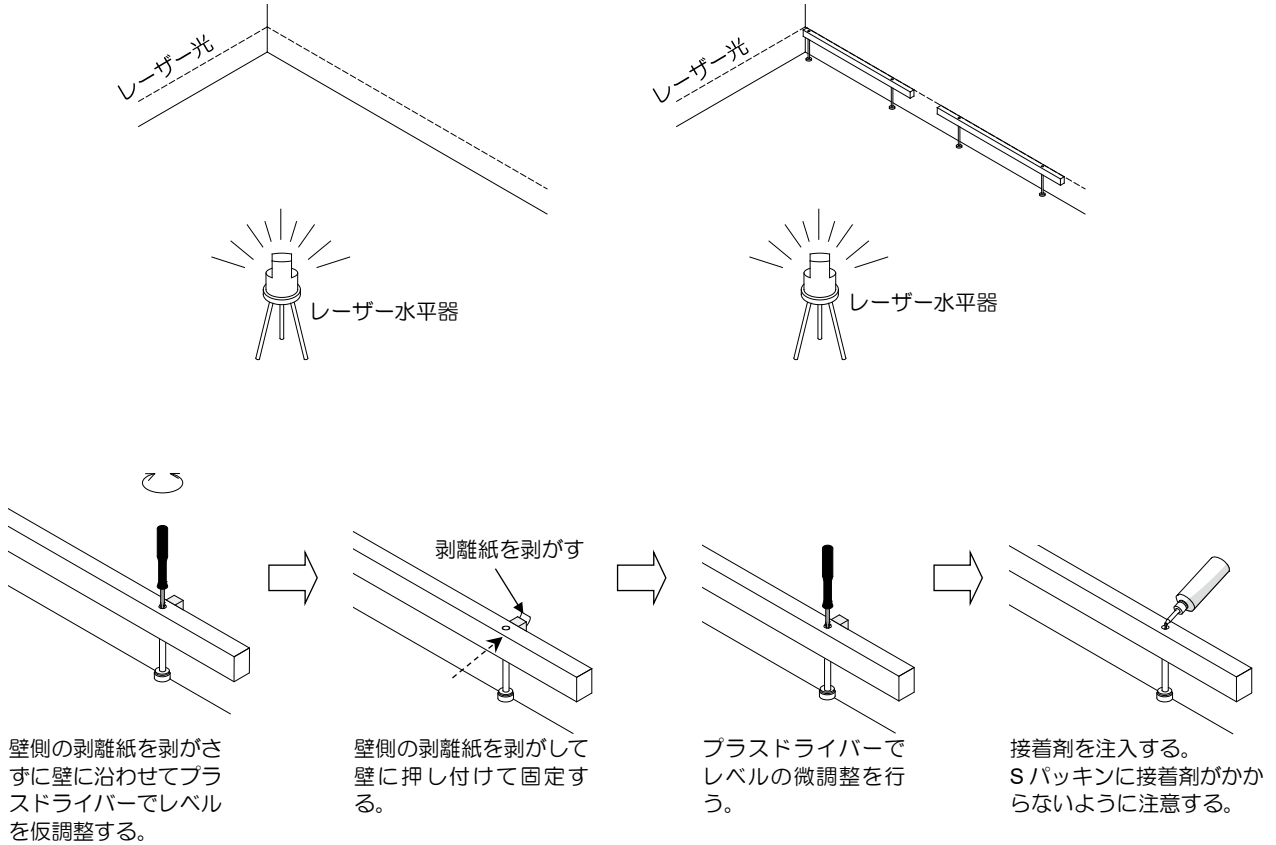


### 4.3 壁際の施工（システムネダ）

レーザー水平器を設置し、壁にレーザーをあてます。

レーザーを基準となる高さに合わせ、システムネダを設置します。

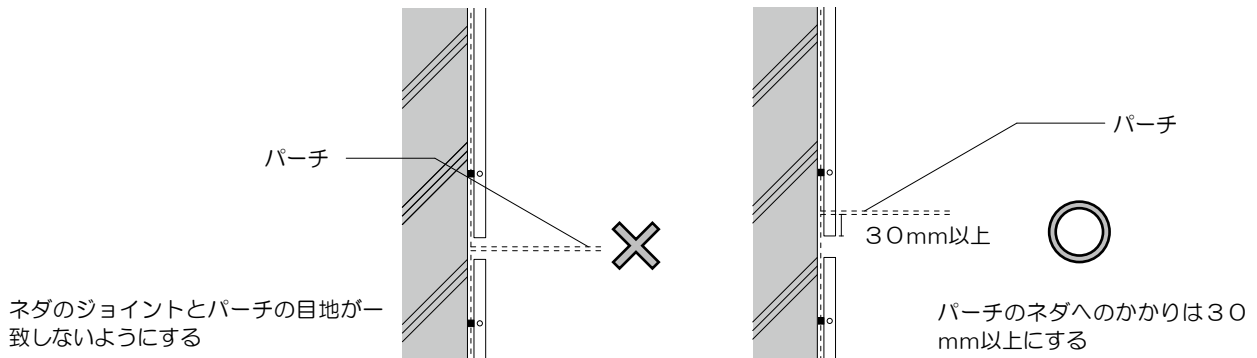
システムネダが傾かないよう、ある程度高さを調整してから、Sパッキンの剥離紙を剥がして壁に固定し、その後、微調整を行います。



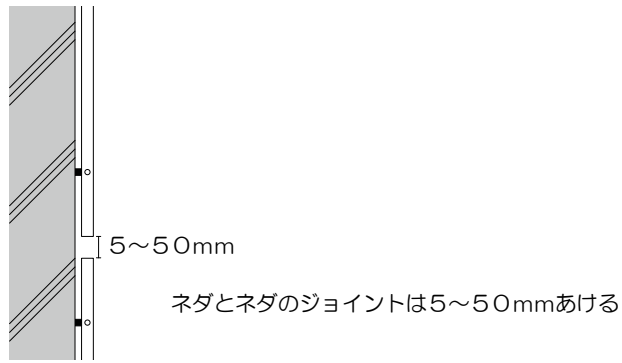
**注意** OAP-60でシステムネダ（N3型）の適応床高（ネダ天端で38mm）よりも低くなる場合は、在来根太で施工します。

**注意** システムネダを施工する際は、以下の点に注意してください。

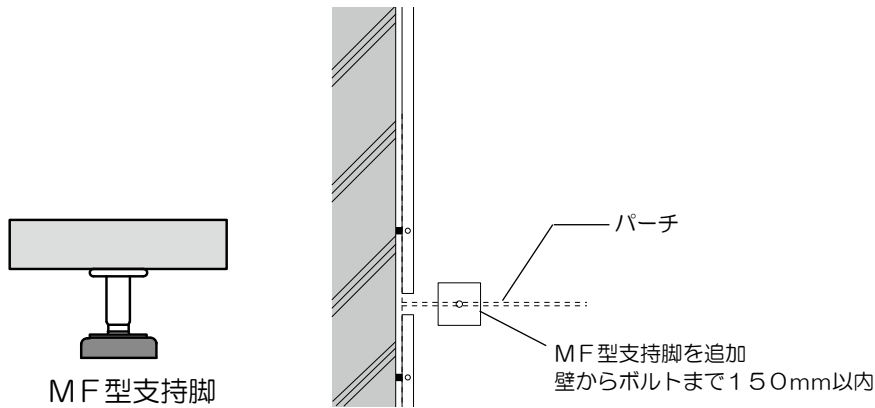
- ネダのジョイントとパーチの目地が一致しないように注意してください。
- パーチへのネダの掛かりは30mm以上にしてください。



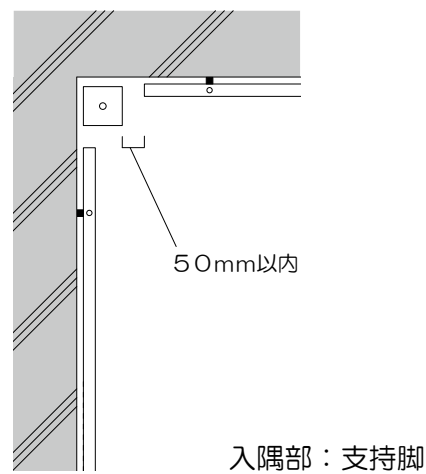
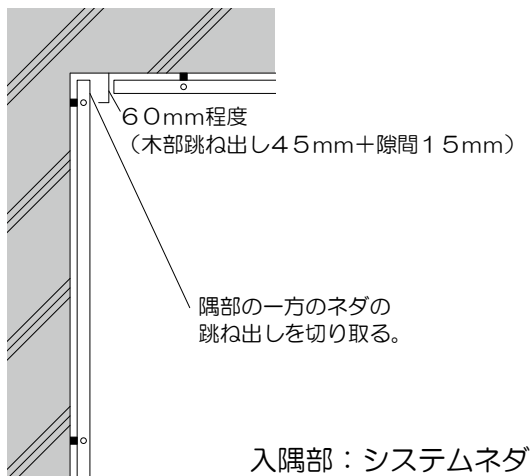
- ネダとネダのジョイントは、5～50mmとしてください。



**注意** パーチの目地とネダのジョイントは一致しないことが前提となりますが、施工床面積が広く、パーチの割付を考慮した上で、パーチの目地とネダのジョイントが一致してしまう場合は、下図のようにMF型支持脚を入れて補強します。

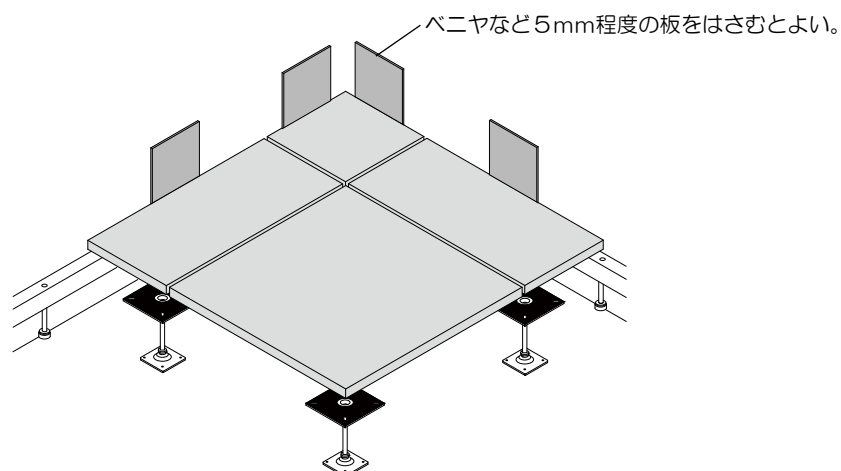


- 入隅は両方向の跳ね出しにならないよう、一方のネダの跳ね出し部を切り取るか、支持脚受けとしてください（支持脚はMF型支持脚）。

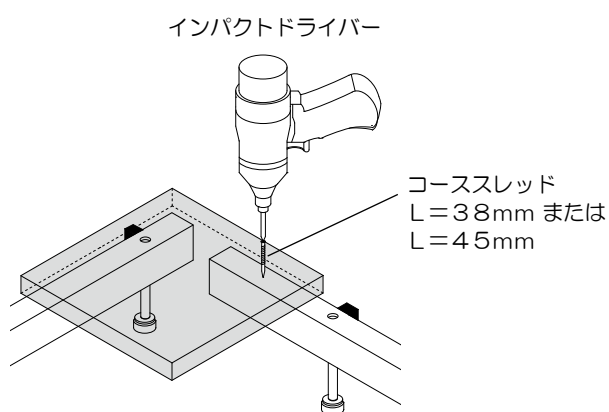


**注意** ネダの跳ね出し部を切る場合、端部から100mm以上切らないでください。

壁側のパーチは、壁に当たらないよう、すきま（約5mm）を確保してください。  
パーチと壁が接触すると床鳴りの原因になります。（すきまゲージを用いると良い）

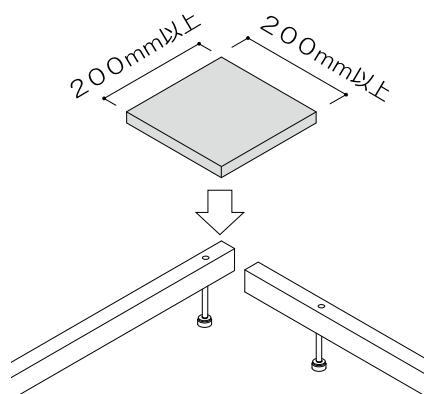


システムネダのボルト位置に注意して、コーススレッドで固定します。

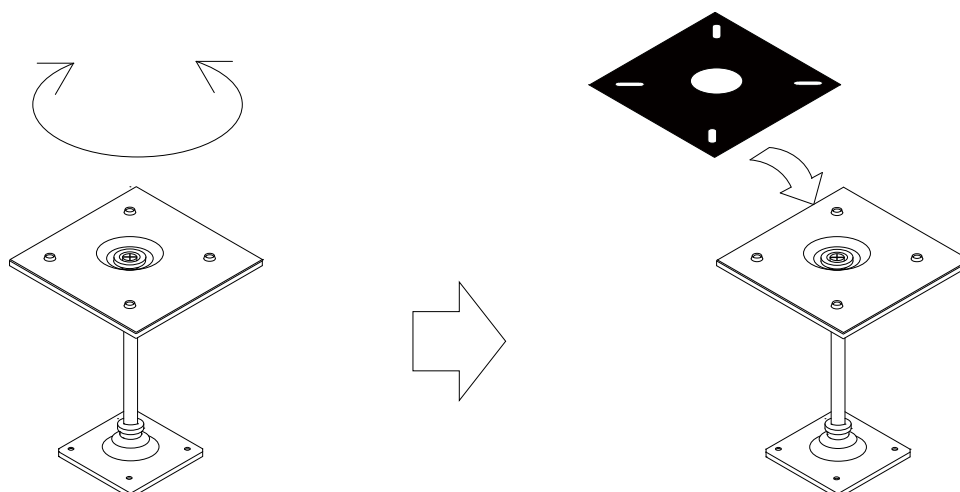


#### 4.4 パーチの敷設

壁際のパーチが縦横とも200mm未満にならないようにパーチをカットするなどして割付調整してください。



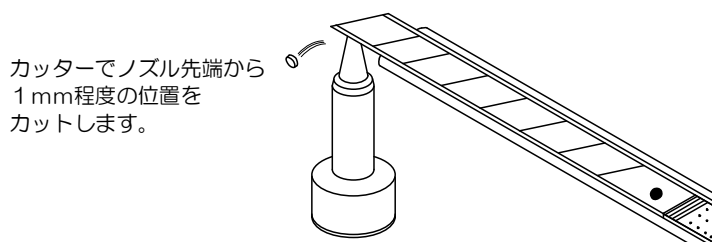
台座を廻し、支持脚を適切な高さに調整します。  
 支持脚にクッションゴムシートをのせます。



クッションゴムシートをのせたら、以下の要領で接着剤を塗布します。

- ①ベースプレート底面塗布
- ②ベースプレート上面塗布
- ③台座部分にも接着剤を注入しますが、後工程になります（10頁の4.7参照）

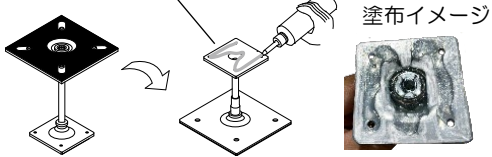
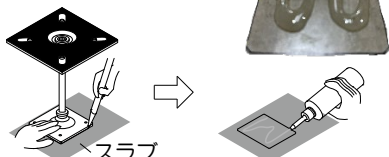
**注意** 接着剤のノズルキャップは先端から1mm程度の位置でカットしてください。



**①ベースプレート底面塗布**

支持脚1本あたりのベースプレート底面への接着剤塗布量は **2ml** です。

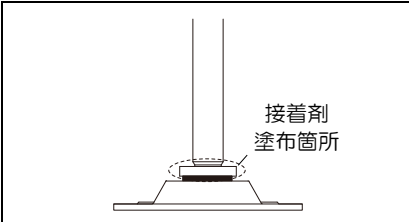
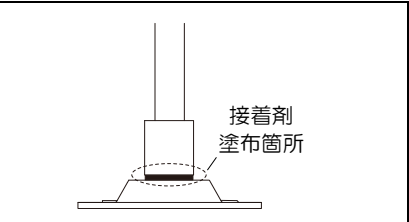
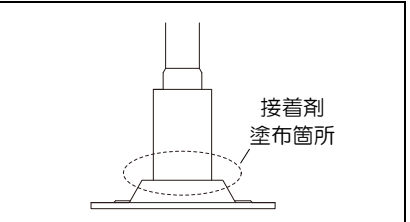
以下のどちらかの方法で塗布してください。（下図参照）

【パターンA】 ベースプレート底面への塗布	【パターンB】 スラブ面への塗布
<p>底面にM字を描くように塗布</p>  <p>塗布イメージ</p>	<p>塗布イメージ</p>  <p>スラブ</p>
<p>支持脚を裏返し、ベースプレート底面のボルト部分とプレート部分に接着剤がかかるように塗布します。</p>	<p>スラブ面に鉛筆等で位置出しをして、接着剤を図のよう塗布します。</p>

## ②ベースプレート上面塗布

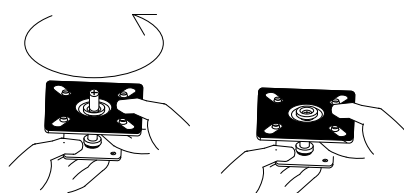
支持脚1本あたりのベースプレート上面への接着剤塗布量は **1ml** です。

下図の箇所（加締めカラーの周囲）に接着剤を塗布すると、ベースプレートとパイプボルトが固定されます。

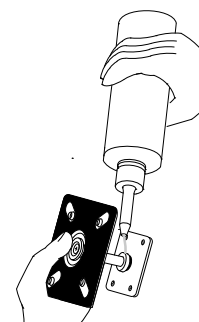
		
OAP-60~130	OAP-160~190	OAP-210~540

**注意** 加締めカラーの周囲に円を描くように接着剤を塗布します。

**注意** OAP-60~65は適応床高が低く、接着剤が塗布しにくいいため、塗布時には以下の例を参考にしてください。



ボルトが突出しない位置まで台座を回します



手に持った支持脚を回しながら、加締めカラーの周囲に接着剤を塗布します。

**注意** 接着剤を付けた箇所は、30分以内に以下の作業を済ませてください。

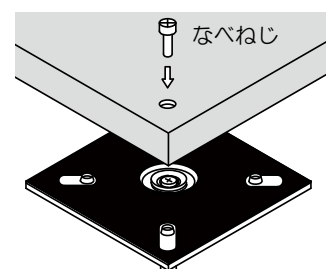
- レベル調整（4.6 レベル調整）
- 台座部への接着剤注入（4.7 接着剤の注入（台座部））

接着剤を塗布し、ベースプレートをスラブに固定したら、支持脚とパチを仮留めします。最初は、パチに支持脚のねじ穴を入れやすくするため、ゆるめになべねじを留めてください。

**注意** なべねじは、きつく締めないでください。

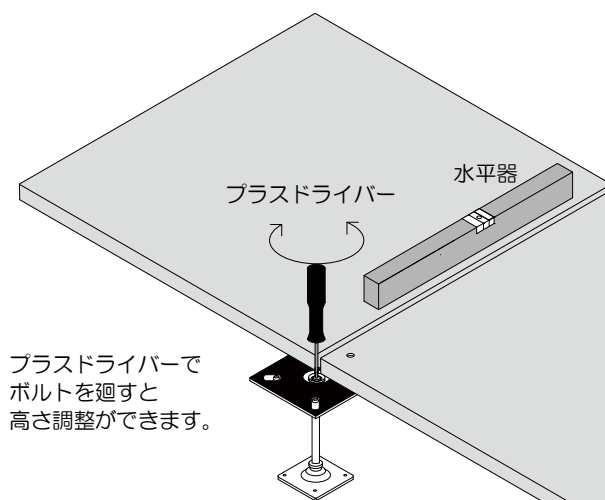
パチの微調整ができなくなります。

**注意** 接着剤は30分程度で硬化が始まりますのでご注意ください。





パーチを一枚張るごとに、水平器・レーザー水平器等を用いてパーチを水平にし、レベル調整します。



**注意** 製造工程上、ボルト頭部の十字溝に一部変形が見られるものがありますが、不良品ではありません。

**注意** インパクトドライバーや電動工具等でレベル調整を行うと、過度な負荷がかかり、ネジ山がつぶれる恐れがありますので、ご注意ください。

以上の作業を繰り返し、パーチを敷き詰めていきます。

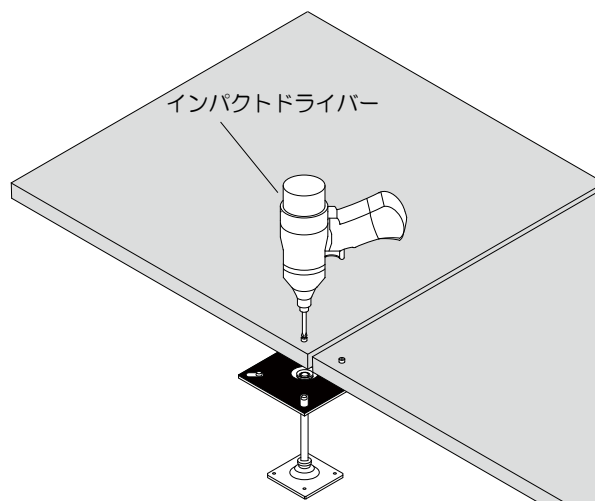
#### 4.5 パーチの固定

仮留めしていたなべねじをインパクトドライバーでしっかり締めます（本締め）。  
パーチ同士の間（8mm）に隙間ゲージを入れると目地が揃えやすくなります。

**注意** なべねじの十字溝をつぶさないようにしてください。

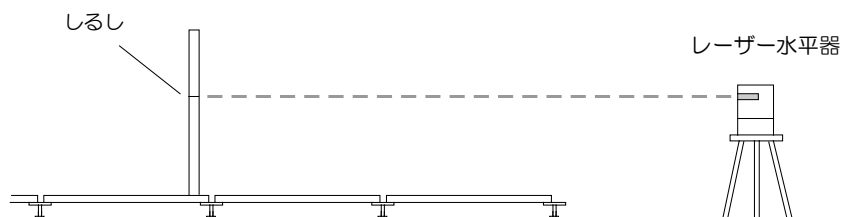
**注意** なべねじの頭がパーチから上に飛び出ないようにしてください。

**注意** 締め込み時は、なべねじがパーチにめり込みすぎないようにしてください。



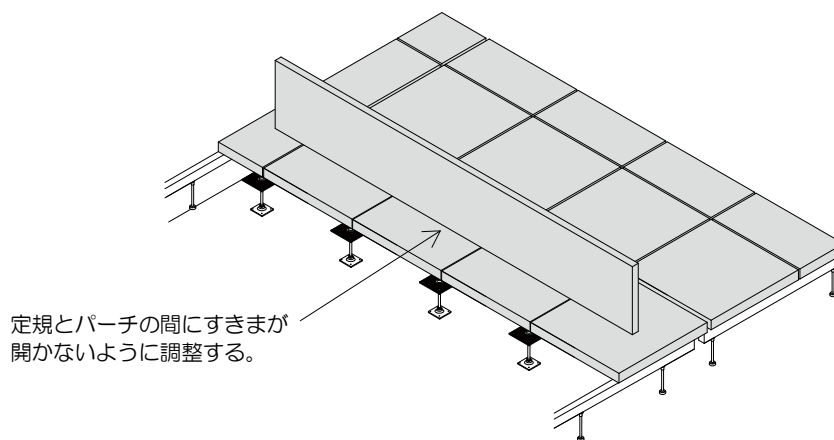
#### 4.6 レベル調整（一列ごと行う場合）

かね尺等を支持脚上に立て、ドライバーでボルトを廻し、目印高さ位置と同じ位置にレーザーがあたるように高さを調整します。



定規を下図のように置いて、すきまが出来ないように調整します。

**注意** 支持脚全てのレベル調整を忘れないようにしてください。



#### 4.7 接着剤の注入（台座部）

レベル調整が終了したら、接着剤により台座とボルトを固定します。

台座中央のボルトとナットの間へ接着剤を注入します。

接着剤注入量の目安は以下の通りです。

台座品番により、注入量が変わります。

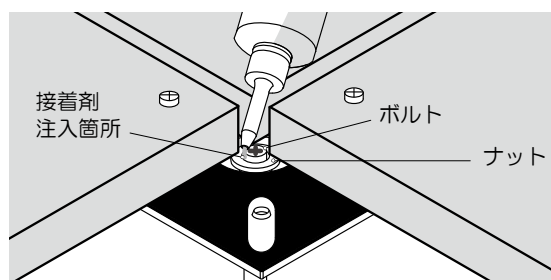
支持脚1本あたりの台座部への注入量は、

OAP-60~190 1ml

OAP-210~540 3ml です。

接着剤が完全硬化するには1~2日くらいかかります。

この間、床上に重量物を置いたりしないでください。



**注意** 接着剤をパーチにできるだけ付けないでください。

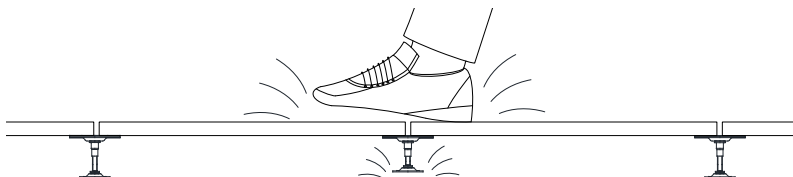
パーチの取り外しが、しにくくなることがあります。

## 4.8 床全体のレベル点検

床全体を歩いて、支持脚の浮きがないか必ず確認します。

支持脚の上を歩いて、他より柔らかく感じたら、浮いている可能性があります。

浮きがあった場合は、レベルを確認しながらドライバーでボルトを回転させ調整します。



**注意** 接着剤は 30 分程度で硬化が始まりますのでご注意ください。

## 5. その他

### 5.1 防水層上に施工する場合の注意事項

防水層保護のため、支持脚の下に緩衝材を施工します。

緩衝材（100mm角程度の大きさ）に接着剤を塗布し、防水層の上に施工します。

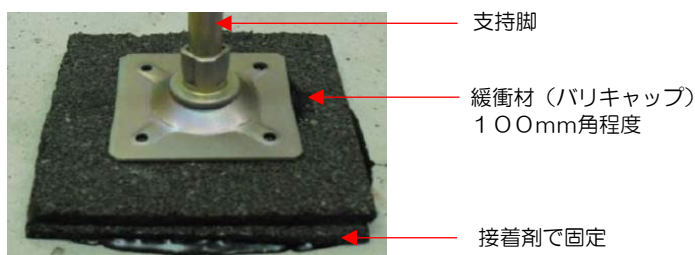
緩衝材は、

（例）田島ルーフィング株式会社 バリキャップ（厚6mm×500mm×1000mm）  
などを使用します。

部材を固定する接着剤は

（例）セメダイン PM165-R（1液型エポキシ変性シリコーン樹脂系接着剤）  
など「弾性・耐水性」のあるものを使用します。

緩衝材上の支持脚には、万協フローア指定の接着剤（BA-200）を使用します。



### 5.2 その他の注意事項

#### ①水を使用する作業

- ・二重床の上で、水を使用する作業を行う場合は、必ずビニールシート養生を行ってください。

## ②資材の仮置き

- 二重床の上に、資材を仮置きする場合は、1ヶ所にまとめず、分散させ、静かに置いてください。(目安としては200kg/m<sup>2</sup>まで)
- まとめて仮置きした場合、床のたわみが戻るまで時間がかかり、仕上げ材の施工に支障が出る恐れがあります。

## ③その他

- 二重床の上は、搬入経路等で使用しないでください。
- 二重床施工後、床上に強い衝撃を加えないでください。建築資材の落下などにより、パーティが割れる場合があります。
- 風雨にさらされる場所への施工は、避けてください。
- 施工要領書に記載のない施工をおこなう場合は、事前にご相談ください。
- 事業主様によっては、本施工要領書とは別に規定を設けている場合がありますので、ご確認の上、施工をおこなうようご注意ください。
- スラブから放出される水分が多い場合や漏水等により二重床下の空間で多湿状態(※1)が続くと、床材の反り、突き上げなどの原因になりますのでご注意ください。
- 自然現象・周辺環境等(※2)の不可抗力に起因する結露、腐食、反り、割れ又はその他の不具合による商品の交換等には対応いたしかねます。

(※1) 湿度 65%以上になるとカビが生えやすい環境となり、湿度 90%を超えると数日でカビが発生する可能性があります。

(※2) 火災・地震・水害・落雷などの天災地変や公害・塩害・ガス害や異常な高温・低温・多湿・過乾燥などの周辺環境

「仕様は予告なく変更することがあります。」